



官民共創で地域課題解決と脱炭素化を実現するイノベーションを創出！

群馬県 知事戦略部 グリーンイノベーション推進課

■ 地域と共創する脱炭素イノベーション創出事業

群馬県グリーンイノベーション推進課では、官民共創により、地域課題解決と脱炭素化を実現する新たな取組の創出を目指して、「地域と共創する脱炭素イノベーション創出事業」を令和6年度から開始しました。

この事業は、交通や農業、廃棄物など地域のさまざまな分野の課題解決を図りながら脱炭素化にもつながるビジネスアイデアを持つ企業と、脱炭素化と課題解決に取り組みたい市町村のマッチングを行い、県内で実証事業を実施します。持続可能な「地域課題解決」×「脱炭素」の取組の創出を支援することで、群馬県内での脱炭素イノベーションを加速させるというものです。

※グリーンイノベーション…環境と経済の持続的な好循環を創出し、経済社会全体の変革を促し社会の持続的な発展を目指す取組を指す

■ 地域課題のデータベース化

本事業のスキームは、大きく4つの段階に分かれます。

1. 地域課題の把握

事業開始にあたり、まず「市町村の官民共創の機運を高めること」と「県内の地域課題を把握すること」の2点に取り組みました。実証事業を進めるには、市町村の協力が不可欠なため、市町村職員を対象に「官民共創のはじめかた」ワークショップを開催し、官民共創で地域課題の解決に取り組む雰囲気づくりと関心の高い市町村職員との意見交換を重ねました。

ワークショップを通して見えてきた地域課題には、個別のヒアリングなどを経て、課題の解像度を上げて言語化し、その地域課題を企業がビジネスとして捉えやすい形に翻訳しました。翻訳した課題は、企業提案のテーマとなるため、ウェブ上に課題データベースを整備して公開しています。

2. 企業提案の募集・審査選定

把握した地域課題をテーマとして、企業提案の募集を行います。応募のあった提案は、書面や面談による予選審査を経て、最終審査で入賞提案(優勝、準優勝、特別賞)の選定を行います。

本事業の審査委員には、サステナビリティの専門家として著名な夫馬賢治氏(審査委員長)をはじめ、エネルギー分野や脱炭素分野の専門家、群馬県にゆかりのある製造業、小売業、地域金融機関の企業などに就任いただき、多様な視点から審査を行う体制を整えました。

また、予選審査を通過したファイナリストには、特典として「社会的インパクトを学ぶワークショップ」、「共創人材によるメンタリング(2ヶ月)」、「県内市町村との面談」を提供し、最終審査に向けた事業の更なるブラッシュアップと実証事業を見据えた市町村との関係づくりを図ります。

3. 選定した企業提案と県内市町村のマッチング

最終審査で選定した企業提案は、官民共創のオープンイノベーションの仕組みである『逆プロポ』を活用し、実証事業に意欲的に取り組みたい市町村とのマッチングを行います。

この『逆プロポ』は、本事業の受託事業者である(株)ソーシャル・エックスが実施する新しい共創サービスで、企業に関心のある社会課題を提示し、それに対して自治体が課題解決のための企画やアイデアを提案するというもので、従来の公募プロポーザルの流れを逆転させることで、熱意のある企業と自治体が同じ視点で良質なプロジェクトを構築できるという特徴があります。

4. 実証事業の実施、ソーシャルインパクト評価

『逆プロポ』でマッチングした市町村と連携して実証事業を実施します。実施後には、事業成果や社会的意義を可視化し、発信していくためのソーシャルインパクト評価を行います。最終的に作成するインパクトレポート(実証事業のソーシャルインパクトの報告書)では、今後、営業やステークホルダーの巻き込み、資金調達、社内のビジョン・ミッションの共有など多様な目的に活用することが可能です。

■ 虎ノ門ヒルズでキックオフセミナーを開催

企業提案の募集開始に合わせて、令和6年9月13日(金)に虎ノ門ヒルズ駅前広場「ステーションアトリウム」でキックオフイベントを開催しました。会場は「オープンスペースで“未来に” 稼ぐタネが生まれる場所」というコンセプトのもとで設定しましたが、あえてオープンスペースを利用した背景には、2050年カーボンニュートラル実現には、行政や企業だけでなく、市民の巻き込みも欠かせないという思いがありました。イベント当日は、道行く人が足を止め、群馬県の地域課題に耳を傾けるといった様子が見られ、多くの方に地域課題や脱炭素について考えるきっかけを提供できたのではないかと思います。



虎ノ門ヒルズ駅前広場「ステーションアトリウム」で行われたキックオフセミナー

イベントには全国から100名以上の応募があり、キャンセル待ちが出るほどの盛況ぶりでした。群馬県及び5市町村が登壇し、「『製品プラスチック』ごみの排出量を削減し、脱炭素社会(カーボンニュートラル)の実現を目指したい」、「市内でエネルギーを地産地消できる仕組みをつくりたい」といった、まさに脱炭素を推進したいといった課題から、野良猫をテーマとした「猫と住民の争いのない暮らしを創る」という身近な課題まで、計10課題の発表を行いました。

イベントの最後に実施した交流会では、登壇者と意見交換を求める参加者が多く見られ、企業提案の募集に向けて大きなスタートを切ることができたと思います。



キックオフセミナー・交流会の様子。虎ノ門ヒルズ駅前広場にぐんまちゃんも登場★

■ 地域課題解決×脱炭素に向けて

本事業は、今後、企業提案のエントリー、審査・選定、市町村とのマッチングと実証事業に向けた動きが加速します。特に最終審査会(日時:令和7年2月12日(水)、会場:NETSUGEN(群馬県庁32階))では、ブラッシュアップされたファイナリストの提案が公開プレゼン形式で発表されます。いずれも地域課題の解決と脱炭素を実現に期待できる内容になるかと思しますので、ぜひ多くの県内市町村に参加いただき、実証事業のフィールドとして手を挙げていただければと思います。